

D 4 フレアースカートの着用感と形態の美しさに及ぼす

縫い目および布の力学特性の影響

共立女短大 ○三木幹子 綾田雅子 奈良女大家政 丹羽雅子

<目的> 近年開発された高ドレープ性の新合織に着目し、同試料を含む数種のドレス地で、はぎ目の異なるフレアースカートを作製し、布の力学的特性及びはぎの縫い目がフレアースカートのドレープ形態に及ぼす影響について既に検討した。本報では、これらのスカートの視覚及び着用による官能検査を行い、着用感ならびにフレアの美しさに及ぼす布の力学的特性と縫い目の影響を明らかにすることを目的とした。

<方法> フレアースカートには綿ブロード、ポリエステル羽二重、高ドレープ性能ポリエステル3種の試料を選定した。視覚による官能検査は、JISの9号標準体型に近いモデルにスカートを着用させ、一定距離歩行時のフレアースカートの動的小よび静的形態を観察して、評価するという方法を採用した。これらの視覚評価には44名、着用評価には62名の女子学生について評価能力を検討して被験者とし、SD法により行った。評価に用いた形容語対は視覚評価では10組、着用評価では16組を選択した。

<結果> 視覚評価による“フレアースカートとしての総合的な良否”では、高ドレープ性ポリエステルのフレアースカートの評価が最も低く、また、着用官能検査においても同様の傾向を示し、どの試料についてもはぎ枚数が多くなるほど評価が高い傾向がみられた。高ドレープ性ポリエステルの場合、布自体の剛軟性が極めて小さく、縫い目による曲げ及びせん断抵抗の増加の影響を受け、縫い目部分が巻き込み、足にまとわりつくため、着用感は良くないという興味深い結果が得られた。以上、美しい外観と快適な着用感を持つ、フレアースカートの縫い目及び力学特性の範囲が明らかにされた。